

目次

□巻頭言 建設の機械化の行方……………清水 四郎 / 1

□協会の事業活動

 社団法人日本建設機械化協会定款…………… / 3

 本協会の事業について…………… / 4

 本協会各部会および建設機械化研究所の動き…………… / 5

□部会研究報告

 ショベル系掘削機構造性能基準（改正）の審議経過報告
 機械技術部会 / 12
 ショベル系技術委員会

 コンクリートポンプの仕様表示規準（案）および同解説（案）
 機械技術部会 / 20
 コンクリート機械技術委員会

 建設機械用稼働記録計の研究報告……………建設機械用計器研究委員会 / 23
 機械技術部会

 地質的にみた岩石トンネルの現状分析……………施工技術部会 / 26
 岩石トンネル掘進機委員会

グラビヤ—除雪機械展示実演会

建設機械整備業の実態と問題点……………整備技術部会 / 33
 税制委員会

□昭和46年度官公庁の事業概要

建設省事業の概要……………坂口 寿 / 36

日本道路公団の事業概要……………高橋 大輔 / 41

首都高速道路公団の事業概要……………山根 一泰 / 46

阪神高速道路公団の事業概要……………石橋 金一郎 / 51

本州四国連絡橋公団の事業概要……………池田 哲夫 / 55

水資源開発公団の事業概要……………八木 直樹 / 61

日本住宅公団宅地開発事業の概要……………三村 篤敬 / 67

□随想 フィリピン良いところ……………小栗 良知 / 70

特許法改正の問題点……………北西 務 / 72

昭和45年度除雪機械研究会の概要……………長田 忠良 / 76

□建設機械化講座 第96回 現場フォアマンのための土木と施工法

XVII. 建設機械概説

 1. 建設機械の基礎知識（その3）……………布施 行雄 / 80

□工場めぐり

 油谷重工広島製作所……………星野 日吉 / 89
 阿曾 沼快

 多田野鉄工所本社工場……………横田 寛久 / 92
 伊達 章

□建設機械化研究所抄報

 試験研究報告（No. 75）……………建設機械化研究所 / 95

□文献調査

 コントラクタは建設機械メーカーに何を要望するか……………調査部会 / 99
 文献調査委員会

 スクレーパの大量導入と
 いくつかのアイデアによる大土工事の完遂……………調査部会 / 100
 文献調査委員会

ニ ー ズ……………（編集部） / 102

行 事 一 覧…………… / 102

編 集 後 記……………（中野・鈴木（康）） / 104

◀ 表紙写真説明 ▶

CAT 992 ホイールローダ

キャタピラー三菱株式会社

鹿島港をはじめとして工事の近代化、大形化が急速に進み、コスト低減、工期の短縮がますます要求されるようになってきた。こうした動きを反映して工法や施工機械の効率向上が研究され、積込機械もスピードのあるタイヤ式へ移行しつつある。本機は日本国内で稼働する最大のもので、碎石場や宅地造成現場で活躍している。

本機のおもな特徴は次のとおりである。

① フライホイール出力 558 PS、総重量 54.8 t、バケット容量 7.65 m³ と超大形ホイールローダで、32 t ダンプにも3回で積込むことができる。

② 巨体を軽々と操作するキャタピラーのパワーシフトは、過酷な作業に抜群の耐久性と生産性を実証している。

③ 1回当り 13~14 t の土を運ぶことができるので、運搬距離の短い場合にはロードアンドキャリ工法（積込自走運搬）によるコストダウンが有効である。すでに各地の碎石場などで原石採取とホッパへの運搬に威力を発揮している。